

UDトラックスが新型車を発表

新興国向け新中型トラック「クローナー」の グローバル発表イベントをタイで開催



ユーザーの生産性を最大に引き出す新発想の中型トラック

UDトラックスは2017年3月1日から4日にわたり、タイの首都バンコク郊外のUDトラックスタイルランドにて、新中型トラック「Croner（クローナー）」のグローバル発表イベントを開催した。4日間にわたるイベントには、各国からのトラック運送事業者・報道関係者ら約600名を含む、社内外あわせて合計約900名が参加した。

新興国市場向けにUDトラックスが開発したクローナーは、生産性や稼働率向上を実現するための幅広いカスタマイズが可能な新しい思想の中型トラックで、「時代が求めるトラック」造りで培ってきたUDトラックスの歴史を継承する新型車になる。今後、クローナーは、アジアやアフリカ、中東、南米の成長市場向けに投入する計画となっている。

クローナーは、UDトラックスの得意とする日本企業ならではの品質管理と熟練技術、ボルボ・グループが保有する世界最高レベルの技術力と調達力の活用、そして現地に根付いた生産とサポート体制という3つの強みの粋を集めて生み出された新興市場向

けの中型トラックである。クローナーは、あらゆる業界・地域のビジネスニーズに合わせて他に類を見ない自由な組み合わせが可能で、同じコンセプトにより2013年に発売された大型トラック「クエスター」とあわせ、UDトラックスの新興国市場向け商品ラインナップが一段と拡充したことになる。

3月1日にバンコクで行われたメディアデーには、アジア・中東・アフリカなど世界9各国・地域から、



UDトラックが新型車を発表



新型車クローナーを中心にしてのUDトラックス首脳陣たちの記念ショット

67社約90名の報道関係者が集まった。

メディアデーの冒頭で挨拶したUDトラックスの村上吉弘代表取締役社長は、「クローナーには、UDトラックスの持つこれまでの知見に加え、クエスターのビジネスで新たに培ったノウハウ・現地のお客様からの声が反映されています。クローナーは、まさに現代の新興国市場における“現場”・“お客様”の求めるトラックだと自負しています」と語った。

当日は商品発表のほかに、クローナーのもつ優位性をそれぞれ体感してもらうために4つのプレゼンテーション(生産性・稼働率・耐久性、アフターマーケットサポート、省燃費性能・操作性)、そして試乗会を

組みあわせ、クローナーの商品の魅力とUDトラックスの哲学の一端も紹介していた。また発表会后、希望する報道関係者を対象に、クローナーとクエスターを生産するUDトラックスのバンコク工場(タイ、バンナー区)の見学会が行われた。バンコク工場は、UDトラックス上尾工場の姉妹工場であり、特に工程管理・品質管理の面において、上尾のモノづくりの精神と製造ノウハウがふんだんに投入されている。

クローナーは、3月上旬にタイ向けの第一号車の納車が行われ、その後順次アジアやアフリカ、中東、および南米の新興国市場への輸出が開始されることになっている。

なお、新中型トラック「クローナー」には次のような商品ポイントがある。

■なにより貴重なユーザーの「時間」

クローナーを開発するにあたりUDトラックスは、現地のユーザーのビジネスニーズを理解した上で、「いかにお客様の無駄な時間を排除し、ビジネスに注力する環境づくりに寄与することが出来るか」を最優先とした。クローナーという名前はギリシャ神話の“時の神”に由来するが、これにもUDトラックスがユーザーの「時間」を貴重なものとする思いが込め



プレス発表ではクローナーの優れた特長が説明された



発表会会場に並べられた各タイプ別のクローナー

られている。

Volvo Group Trucks Asia & JVs Sales プレジデントのジャック・ミシェル氏は、「シンプルにメンテナンス時間を減らして稼働時間を増やせば、お客様のビジネスの成功につながるとUDトラックスは考えます。すなわち、私たちがクローナーで目指したのは、“お客様の時間を一瞬たりとも無駄にしないトラック”です」と述べている。

さらに、ジャック・ミシェル氏は、「クローナーは、UDトラックスの得意とする日本企業ならではの品質管理と熟練技術、ボルボ・グループが保有する世界最高レベルの技術力と調達力の活用、そして現地に

UDトラックが新型車を発表

根付いた生産とサポート体制という、3つの強みの粋を集めて生み出されました。さらにはUDトラックのコアバリュー“Ultimate Dependability (究極の信頼)”や、創業以来受け継がれているプロ意識、情熱、そして信頼というUDトラックの精神である“現場スピリット”があらゆる要素に取り入れられています。コンポーネントの一つひとつが何年にもわたる開発や厳しいテストの結果なのです。まさに日本のモノづくり、すなわち高品質の追求を具現化しています」とUDトラックの妥協を許さないモノづくり精神を強調した。

■ユーザーのビジネスを「一歩先へ」

クローナーの多様な機能・オプション、優れた安全性・操作性、省燃費性能、耐久性そしてメンテナンスの容易さは、幅広い市場において、ユーザーの生産性や稼働率の向上を実現させる。UDトラックの他のモデルと同じく、クローナーもUDトラックが



イベントでは試乗会も行われた

掲げるブランドプロミス(ユーザーとの約束)「Going the Extra Mile その一歩先へ」を形にしたトラックである。

■多彩なバリエーション

クローナーには車両総重量(GVW)別に、MKE(10.4~11トン)、LKE(12~14トン)、PKE(15~17トン)という3つのモデルがあり、各モデルに応じて、6つの基本ホイールベース長(PKEではロングホイールベースも選択可能)、3種類のエンジン出力が選択可能な5リッターエンジンと、同じく2種類が選択可能な8リッターエンジン、6速と9速のマニュアルトランスミッションとオートマチックトランスミッション、通常タイプとスリーパータイプのキャブデザイン、PTO、多彩なアクスルアレンジメント、精密機器などの積荷を保護するために有効なエアサスペンションなど幅広いバリエーションとオプションを用意。新興国市場向け大型トラック「クエスター」と同様に、あらゆる業界・地域のビジネスニーズに合わせて他に類を見ない自由な組み合わせを可能にしている。

■ドライバーへの配慮

クローナーは、1日の大半を運転席で過ごすドライバーのために、安全性や操作性が今まで以上に配慮されている。例えば、優れたブレーキとハンドリング性能は、車両の挙動を安定させ、ドライバーを無用なストレスから解放することになる。

そして、オプション設定されたオートマチックトランスミッションも、クローナーに対するUDトラックの考えを示す特長のひとつとなっている。

UDトラックの岸伸彦ブランド&プロダクト シニア・バイスプレジデントは、「クローナーのオートマチックトランスミッションは、日本と同じく深刻なドライバー不足に直面している南アフリカのような市場で極めて重要なオプションになり得ます。オートマチックトランスミッションにより運転が楽になり、ベテランから新人までドライバーの疲労を軽減することにより、お客様のドライバー確保に貢献できると考えています。同様にアジア地域でも、クラッチレスゆえに長期的にはメンテナンスコストと休止時間の大幅な削減が期待で



きるオートマチックトランスミッションは市場の流れを変え得ると見えています」と述べている。

■省燃費性能

車両を多数保有するオーナーにとって、トラックの数や走行距離に比例して増加する燃料代は大きな支出となる。

岸シニア・バイスプレジデントは省燃費性能について、「クローナーは、新興国市場における中型トラック燃費性能水準を一段引き上げたと言えます。燃料噴射量とタイミングを最適にコントロールする新しいGHEエンジンシリーズ、オートマチックトランスミッション、省燃費運転コーチングシステム、CD値を5%削減し空力性能を改善したキャブなどにより、クローナーは燃料を効率よく使用します」と説明した。

■UD エクストラマイルサポート

クローナーの各コンポーネントの頑丈さにUDトラックは自信を持っている。また、一新した駆動系や

新しいシャシーなどにより、整備のインターバルを長くすることも可能にしている。こうした車両自体の信頼性に加え、UDトラックは、UD純正整備・純正部品、UDドライバートレーニング、「UDトラスト」サービス契約といった、包括的なUDエクストラマイルサポートを提供し、ユーザーの稼働率向上を実現させていくとしている。

さらに、エクストラマイルサポートに加えて、UDトラックは先進的なテレマティクスソリューションを提供している。ユーザーに情報をリアルタイムで発信し、ユーザーの車両運行を改善できるようにレポートの提供も行っている。ユーザーの車両とUDトラックの整備拠点をつなぐことで、UDトラックはユーザーに対してタイムリーかつ継続的なサポートを実現させることになる。

◇ ◇ ◇ ◇
1935年に設立されたUDトラックは包括的な輸送ソリューションを提供する日本の商用車ブランドで、2007年以降ボルボ・グループの一員として、日本に本拠を置き、国内のみならず世界60カ国以上に販売ネットワークを展開している。